

古墳

（先人からのメッセージ）
市内には誇るべき、後世に伝えていきたい唯一無二の歴史遺産が数多くあります。それらは実は皆さんの生活している身近に存在していて、多くの先人たちが力を合わせて現代まで大切に保護してきました。今回はその中でも、市内の古墳に焦点を当ててご紹介します。それぞれの特徴や造られた時代背景などを学びながら、先人からのメッセージに耳を傾けてみませんか？

どんな種類がある？

古墳の形

古墳の形で有名なのは、前方後円墳と呼ばれる、上から見ると鍵穴形に見える古墳です。しかし古墳の形は様々で、全国的にも前方後円墳は全体の約3%程度しかありません。
市内に残る古墳のほとんどが円墳と呼ばれる円形の古墳で、そのほか方墳、前方後方墳、帆立貝形古墳などがあります。

古墳とは

古墳は3世紀中ごろから7世紀代にかけて造られた有力者のお墓です。大きく盛り上げた土（墳丘）の中に遺体を埋葬し、まわりを周溝と呼ばれる溝で囲っています。墳丘には埴輪と呼ばれる焼き物が立て並べられるほか、表面を石で覆っているものもあります。また遺体とともに鏡などの呪術的な器物、玉類などの装身具、刀や鍬などの武具が副葬品で埋められることもあります。古墳が造られた時代を日本では古墳時代と呼んでいます。

実はすごい!!

東松山市の古墳

市には墳丘が失われてしまったものも合わせて**679基**（令和7年4月時点）の古墳が確認されています。北は大谷地区の山中に分布する三千塚古墳群から、南は高坂台地上に所在する高坂古墳群、諏訪山古墳群、毛塚古墳群など、至るところに古墳がある景色が市の古代の風景でした。また古墳時代のはじまりから終わりまで造られ続けたことも大きな特徴で、古凍にある**根岸稲荷神社古墳**は**県内で最も古い古墳**とされています。



根岸稲荷神社古墳



紹介する遺跡と主な古墳群

市内の主な古墳

市内の代表的な古墳を、古墳時代の各時期に沿って紹介します。それぞれの特徴を学ぶと、古代の市内の様子が想像できませんか？

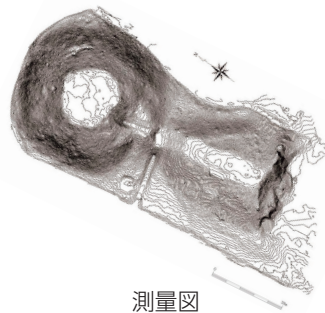
古墳時代前期における県内最大の古墳

将軍塚古墳（県指定史跡）

所在地：下野本612・613



将軍塚古墳



測量図

現存墳丘長115mの前方後円墳です。本格的な発掘調査は行っていないですが、平成29(2017)年にデジタル三次元測量と地中レーダー探査を行い、古墳墳丘には後円部3段、前方部2段の段があること、周溝が存在しないこと、後円部墳頂に石と粘土で造った埋葬施設があることなど、様々なデータが得られました。

この成果と関東地方における古墳の情報を照らし合わせることで、将軍塚古墳が4世紀後半に造られた、当時県域最大の古墳であったことが分かりました。

前期

後期

自然災害が示す古墳の年代

おくま山古墳（市指定史跡）

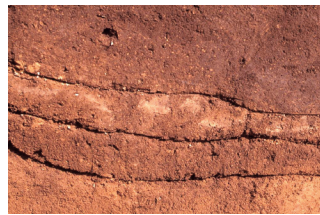
所在地：古凍92



おくま山古墳



盾持人埴輪



降下した火山灰層

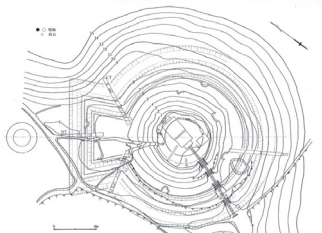
墳丘長約62mの帆立貝形古墳です。埋葬施設の調査は行われていませんが、周溝については3度に渡って調査が行われています。なかでも1次調査にて出土した盾持人埴輪は、盾を持っている形状の埴輪で、出土状況から古墳周溝外側に、古墳を守るように立て並べられていたと考えられます。

また周溝が埋まった土の中から、榛名山二ツ岳（群馬県）の火山灰（Hr-FA）が確認されました。この火山灰は6世紀初頭に降下したことが分かっている、この火山灰が古墳に降り積もっていたということは、少なくともこれ以前に古墳が造られていたことを示し、5世紀末頃に古墳が造られたことが分かります。

埼玉県内で最も古い埴輪が出土

雷電山古墳（市指定史跡）

所在地：大谷3506



測量図



雷電山古墳出土埴輪

和田吉野川と滑川の支流に挟まれた丘陵地帯の標高94m地点にある、墳丘長86mの帆立貝形古墳です。多くの古墳は盛土によって造られていますが、この古墳は下から1、2段目は地山の凝灰岩層を削って造り、最上段にだけ盛土をして形を造っています。土の確保が難しい丘陵尾根上でより大きな古墳に見せるための工夫が見て取れます。

また墳丘には埴輪が立て並べられていた痕跡（埴輪列）が出土しています。出土した埴輪は、古墳時代の土器である土師器の製作技法に近く、この埴輪の製作に土師器を作った人々が関わっていると考えられています。県内最古のもので、埴輪の特徴から、古墳の築造年代は5世紀初頭と考えられています。

中期

後期末

最先端にして至高の横穴式石室

若宮八幡古墳（県指定史跡）

所在地：石橋2240-1



若宮八幡古墳



玄室内部の石組

6世紀後半に築造された現存墳丘径34mの円墳です。この古墳は埋葬施設である全長8.8mの横穴式石室が現存しています。横穴式石室は古墳の側面へ入口（開口部）がある構造の埋葬施設で、この古墳の石室は、外と部屋をつなぐ羨道、祭祀などを行う前室、遺体を埋葬する玄室で構成されています。

壁の石同士がかみ合うようにドーム状に積み上げ、さらに天井に大きな石をのせることで、石同士がしっかりかみ合いつつ、自重を分散させるよう工夫されています。こうした形状の石室はこれ以降、埼玉県域だけでなく東京都、神奈川県域（旧武蔵地域）においても、地域トップクラスの古墳に採用され、先駆けの石室でした。

古墳から出土したお宝

市内ではとても珍しいお宝も出土しています(出土場所は2ページの地図に記載)。長い年月を経て地上に出てきたこれらの物たちが、古代の文化などを伝えてくれます。

発掘調査で出土した県内唯一の事例

よこはびいたびようどめたんこう
横刈板鉾留短甲(市指定考古資料)



横刈板鉾留短甲



短甲出土状況

平成19(2007)年に東耕地3号墳(美原町)の発掘調査で、埋葬施設から大刀や剣、鉾とともに短甲が出土しました。短甲は胴体を守る防具です。横長の鉄の板を鉾で留めてつなぎ合わせていることから、横刈板鉾留短甲と呼ばれています。5世紀後半に製作されたものです。定型化した短甲の多くが畿内(現在の奈良県・大阪府一帯)の古墳から出土しており、ヤマト王権が生産と管理を掌握し、各地の有力者と軍事的な関わりを持つ過程で供給されてきた背景が指摘されています。県内では、発掘調査で出土した初めての事例です。

古墳時代最終末の逸品

ほうとう たい ち どうわん
方頭大刀・銅鍬(市指定考古資料)



方頭大刀



銅鍬

西原1号墳(上唐子)は7世紀代に築造された古墳で、横穴式石室から鉄鍬7本とともに、伏せられた状態の銅鍬1点と、柄頭を北に向けて置かれていた装飾付大刀(方頭大刀)1振が出土しました。

方頭大刀は刀の柄頭に方形の飾りがつく大刀の総称で、この古墳に埋葬された人物は、ヤマト王権を構成する有力豪族との結びつきがあったものと考えられます。

銅鍬は、青銅でできた平底の器で、一部が押しつぶされて亀裂が入っていますが、欠損した部分がなく、完全に原形をとどめています。鋳型による鋳造製品で、その制作技法は、現代の旋盤技術にも匹敵する精緻なものと評価されています。

全国で唯一の造形

みずどり かん じんぶつはにわ
水鳥を冠した人物埴輪(市指定考古資料)



腰に表現された袋

現在のきらめき市民大学構内、岩鼻古墳群にて出土したこの埴輪は、水鳥形の冠帽を被った男子が、左の小脇に何かを抱え、右手を前方に向かって差出し、何かを手招くようなしぐさを表現し、腰の後ろにはT字形の袋のようなものが表現されています。この埴輪の役割については「脇に抱えたものから餌をまいて鳥を呼んでいる」「鳥の装いをし、古墳に近づく邪霊を袋に封じようとしている」「死者の魂を呼び寄せ、馬に乗せて導いていく」など、様々な説がありますが、全国で同様の造形を持つ埴輪がなく、今後同様の埴輪が発見されればその役割がはっきりしてくるものと考えられます。

埼玉県内初の発見

さんかくぶちん し さく しん に じゅうきよう
三角縁陳氏作四神二獣鏡(市指定考古資料)



三角縁陳氏作四神二獣鏡



復元鏡

平成23(2011)年に高坂古墳群で、県内で初めて三角縁神獣鏡を発見しました。古墳時代前期にヤマト王権が各地の有力者と協力関係を結ぶ過程で配布されたものと考えられており、王権と結びつきの深い人物が高坂にいたことを示す発見といえます。「鏡」と名がついていますが、現代の鏡とは用途が違い、有力者の権威の象徴(威信材)として古墳に副葬されるものです。市では、この鏡が、約1600年前に鋳造された当時の姿を復元しました。

古墳が造られた背景～反町遺跡と五領遺跡～

古墳は有力者のお墓ですが、そもそも古墳が造られる背景にはその有力者を支えた集落の存在があります。

反町遺跡は北を都幾川、南を高坂台地に挟まれた自然堤防上に所在しています。古墳時代前期の集落跡としては県内最大級と推定されています。この遺跡にはこの土地の土器である五領式土器のほか、東海西部系、東海東部系、畿内系、近畿北部系など、他地域の系譜を引く土器(外来系土器)が出土しています。複数の地域の土器の全てが揃った遺跡は県内でも反町遺跡だけです。

さらに反町遺跡からは玉造の工房跡や、川の水流を引き込む堰や木製の農具なども発見されており「商業・工業・農業」が揃う希少な遺跡です。



反町遺跡と都幾川・高坂台地

引用・参考:「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第380集 反町遺跡Ⅱ」
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 平成23(2011)年

反町遺跡の北方、都幾川を挟んだ対岸の東松山台地上には五領遺跡が所在しています。こちらも古墳時代前期を主体とする集落遺跡で、これまで古墳時代の住居跡150軒以上の調査が行われています。五領遺跡で出土している土器は、畿内系の土器がほとんどを占めており、同じ時期の関東地方の土器が東海西部系の土器が多いのが一般的なのに対し、非常に畿内色の強い遺跡です。



五領遺跡出土土器



五領遺跡で調査した住居跡

- 反町遺跡はヤマト王権の経済圏を拡大するため、先進技術を伴って遠方からやってきた人々が形成した技術や交流の拠点
- 五領遺跡は首長クラスの住まいの周辺に営まれた畿内系の集落

こうした遺跡の存在が、三角縁神獣鏡や將軍塚古墳の背景にあることが分かります。

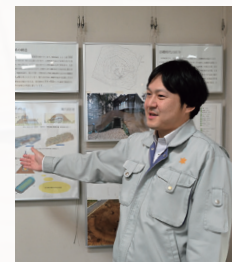


ガラス小玉の鋳型

文化財担当者へインタビュー

市の古墳時代の特徴は？

最大の特徴は約450年間続いた古墳時代の各時期に、地域を代表するような古墳や集落が造られ続けたことです。この背景には東松山市の立地があります。複数の河川は水源であり、人的・物的交流の大動脈でした。また台地や丘陵は、古代の人々が生活するうえで自然災害に強い、住みよい環境であったと言えます。



埋蔵文化財センター
矢口主査

市民の皆さまへ

今回紹介した古墳時代の資料は、市の文化財のごく一部です。市内には考古資料のほかに古文書等の歴史資料や、木や植物などの天然記念物、地元のお祭りで披露される民俗文化財など、多種多様な130件の指定文化財があります。そのほか、古民家等の建造物や仏像や路傍に置かれた石造物など、いわゆる「未指定の文化財」と呼ばれるものが、把握しているだけでも7300件以上あります。こうした一つ一つの文化財が市の歴史を紐解き、後世に伝える役割を担っていることを知ってもらえたらうれしいです。

歴史ロマンに思いを馳せて…

御墳印を集めてみませんか？

「御墳印」とは、御朱印の古墳版で古墳を来訪した際の記念品です。令和5(2023)年に近隣5市1町(行田市・熊谷市・羽生市・深谷市・久喜市・吉見町)と連携し、東日本で初めて販売を始めました。

市内では「將軍塚古墳」と「若宮八幡古墳」の2種類を市観光協会と市観光案内所で販売中です。歴史ロマンに思いを馳せながら「御墳印」を集めてみませんか？

費各300円

問市観光協会 ☎23-3344 ☎23-7775



將軍塚古墳



若宮八幡古墳

ミニ三角縁神獣鏡を作ってみよう！

埋蔵文化財センターでは社会教育講座「ミニ三角縁神獣鏡鋳造体験」を実施します。



自分だけのミニ神獣鏡を作ってみませんか？詳細は13ページをご確認ください。

埋蔵文化財センター

展示室では今回紹介した古墳時代の実物資料を展示しています。

所在地：下野本528-1

開館時間：午前8時30分～午後5時15分

(展示室 午前9時～午後4時30分)

※ただし、土・日曜日、祝日、年末年始を除く

特集に関する問合せ 埋蔵文化財センター

☎27-0333 ☎27-0334



市HP